

学び
20(1)

二人の裁判官

個人、グループ討議 10分

【学習のねらい】

自分の中にある先入観や思い込みに気づく。

【進め方】

「文章がおかしいのでしょうか。それとも理解できないこちらの意識の問題でしょうか。」と問いかけながら、「ふたりの裁判官」を読んで、B裁判官が、なぜ私の息子と言えたのか、そのわけについて話し合う。

< 二人の裁判官 >

二人の裁判官が、夕食後、仕事のことについて語り合っています。

A裁判官：「今日の裁判のことをどうしましょうか。もし、あなたが私だったらどのように裁きますか。」

B裁判官：「あなたは、そのようなことに私が答えられないということをご存知ではありませんか。彼の父親は、5年前に死んでしまったというだけでなく、彼は私の息子でもあるのですから」

学び
20(2)

息子よ息子

個人、グループ討議 10分

【進め方】

下の問題文のカードが配られたら、各自、カードを順番に並べる。さて、「並べることができないのは、文章がおかしいからでしょうか。それとも理解できないこちらの意識の問題でしょうか。」と問いかけながら、グループで話し合う。

外科医は、「これは私の息子！ ○○（名前）！」とおののき叫びました。

交通事故が発生しました。

父親は、即死です。

息子は病院に運ばれました。

彼の名前を、外科医が確認しました。

タンクローリーが、ある中年男性とその息子をひきました。